総長挨拶



はじめに

東北大学は、1907 年に東京、京都に次ぐ第三の国立大学として、「杜の都」仙台の地に創設されて以来、多くの指導的人材を輩出するとともに、独創的かつ世界的な研究成果をあげてきました。創設当初より民間や自治体からの多大な期待と支援を受けて発展してきたことから、本学は長年にわたり「社会とともにある大学」をアイデンティティとして、その歴史を築いてきました。

現在、10 の学部と 15 の大学院、3 の専門職大学院、6 の附置研究所、病院、附属図書館に加え、教育研究に携わる多くの機構やセンターを擁し、日本を代表する総合研究大学として成長を続けています。

東北大学の３つの理念

本学は創立以来、「研究第一」「門戸開放」「実学尊重」の理念を掲げ、社会を先導する人材の育成と新たな価値の創造に取り組んできました。

「研究第一」の源流は東北大学の創設期に遡ります。初代総長・澤柳政太郎は、最初の入学宣誓式において「我東北大学はこの点（研究）に於いては（世界の）何れの大学にも退けを取らざる覚悟なり」と述べ、日本の大学として先駆けて国際的な「研究大学」となることを宣言しました。このことはまた、世界的に卓越した研究こそが、優れた教育や社会価値創造の原動力であり、社会からの信頼の源泉であることを意味します。イギリスの高等教育専門誌 “Times Higher Education（THE）” が発表する THE 世界大学ランキング日本版では、本学は４年連続 1 位を獲得しており、その優れた教育研究実績が外部からも高く評価されていることを表しています。

「門戸開放」は、今の言葉で言えばダイバーシティ（多様性）の尊重と推進です。本学は早くから旧制高校以外の出身者にも広くその門戸を開き、1913 年には、我が国の大学として初めて女子学生の入学を認めました。日本初の「女子大学生」がこの東北大学で誕生し、今年は「東北大学女子大生誕生 110 周年」記念事業が行われます。この時入学した 3 名の女子学生はその後、女性初の「学士」となって、女性研究者のパイオニアとしてその名を残しました。さらに、中国の文豪であり思想家の魯迅が、本学医学部の前身である仙台医学専門学校で学び、まだ外国人留学生が珍しかった時代に藤野厳九郎先生から懇切丁寧な指導を受けたことは広く知られています。出身校や性別、国籍等にとらわれず、幅広く優秀な人材を受け入れる「門戸開放」の理念は、時代を経ても決して揺るぐことはなく、昨年４月に発出した「ダイバーシティ・エクイティ＆インクルージョン（DEI）推進宣言」へと引き継がれ、すべての構成員がダイバーシティを尊重し、かつ尊重されるよう「門戸開放」をさらに深めています。

「実学尊重」は、新たな社会価値の創造を意味します。大学における価値創造を産業へと進化させるなど社会との共創を通して、社会の発展と人々のウェルビーイングのために役立てることは、東北大学が果たしてきた重要な役割の一つです。2011 年の東日本大震災は、本学の長い歴史の中でも、そして私たちの社会全体としても決して忘れることのできない出来事です。この大震災で得た経験と教訓、さらにはその後の復興・新生の取組みにより、本学が「社会とともにある大学」であることを学生、教職員が改めて深く胸に刻むこととなりました。特に、本学が強みとする災害科学の分野では、災害や危機などを受けとめ跳ね返す力、すなわち社会のレジリエンスを一層向上させるべく、文理融合の研究や幅広い活動を行っています。今年、第３回となる世界防災フォーラムを仙台で開催し、多くの関係者とともに、レジリエントな世界の構築に向けた提言を国連防災機関（UNDRR）に提出しました。これは、2015 年に採択された「仙台防災枠組 2015 − 2030」に対し、現在行われている国連の中間評価に貢献するものです。加えて、2021 年に本学はグリーン未来創造機構を設置し、2015 年に採択された世界の三大アジェンダ、すなわち仙台防災枠組、SDGs、パリ協定の目標を見据え、多くのステークホルダーと協働してカーボンニュートラルをはじめとする新たな社会の実現に向けた取り組みを推進しています。このように、さまざまな領域が融合する「総合知」を活用した取組みは、「社会との共創」としてより良い世界の構築のために社会に貢献するという本学の「実学尊重」の理念に深く根差した活動です。

新たな価値創造に向けて

青葉山新キャンパスでは、我が国初の官民地域パートナーシップにより整備が進められてきた次世代放射光施設 NanoTerasu（ナノテラス）がいよいよ来年度、運用開始の運びとなります。同施設と連動して産学共創を展開するサイエンスパークは、ナノテラス西側の約 4 万㎡の土地を中心に整備を進めており、産学官金のチームが集う共創の場となります。本年５月に開催された G７仙台科学技術大臣会合では、本学災害科学国際研究所の視察が行われるとともに、ナノテラスを会場として本学及び Q-STAR（一般社団法人量子技術による新産業創出協議会）が公式サイドイベントを主催し、担当大臣ら各国代表の出席を得て、今後の量子技術に関する国際協力や社会実装に向けた活動について認識を共有しました。本学は、課題解決やイノベーションに正面から取り組み、社会や世界における活動を進めています。医学系の星陵キャンパスでは、日本最大規模の一般住民バイオバンクを擁する東北メディカル・メガバンク機構（ToMMO）を中心に、個別化医療等の産学共創を推進し、サイエンスパークとも連携してオープンイノベーションに取り組みます。

新しい大学の姿、価値創造のプラットフォームへ

東北大学がこれから目指すべき姿とは、これまで以上に研究・教育の卓越性を追求するとともに、従来型の高等教育機関の枠を超えた機能拡張を進めて、社会とのエンゲージメントと共創を通して価値創造を行う現代的プラットフォームへと進化していくことであると考えます。本学は、世界に変化をもたらす新たな研究大学のエコシステムに向けて、多様で多彩な才能を受け入れ伸ばしていく徹底した開放性、国際性の追求、研究者とりわけ若手研究者が躍進できる研究支援体系、スタートアップ創出や資金循環も含めたエンゲージメントの加速、研究と共創を通して社会価値を創造する人材の育成とアントレプレナーシップの浸透、そしてそれらを支える経営改革に戦略的に取り組んでいます。

最後に

東北大学が公共財として今後一層社会に貢献するためには、地域、産業界･経済界、自治体や国などの公的機関、同窓生を含めた本学関係者など、多様なセクターとアクターからのご支援、ご協力が欠かせません。本概要には本学の教育･研究活動や社会貢献、特色ある研究など、本学の最新の情報が記載されています。また、東北大学ホームページ（https://www.tohoku.ac.jp/japanese/）では、大学の最新情報を発信しています。皆様には、本学のさらなる挑戦への決意にご理解をいただき、一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和５年（2023 年）８月
東北大学総長　大　野　英　男